京都帝國大學新聞
月三回（六の日の前日発行）
購讀料 一部二錢 郵税共五錢 一年一圓郵税共
廣告料 一行一回 一段 十行 金五十錢 一段 二十行 金一圓 一段 三十行 金一圓五十錢 一段 四十行 金二圓 一段 五十行 金二圓五十錢 一段 六十行 金三圓 一段 七十行 金三圓五十錢 一段 八十行 金四圓 一段 九十行 金四圓五十錢 一段 百行 金五圓 一段 百行以上 一行 金五錢 一段 百行以上 一行 金五錢 一段 百行以上 一行 金五錢
編輯人兼發行人 山田一雄
東京市麹町区飯田町一丁目一番地 學友會館内 京都帝國大學新聞社
電話 麹町 二一七番

年の瀬せまり 試驗氣分—濃厚

一年を棒に振つた人もあり 受驗屆を忘れるな

文學部は十一月十五日機械の文學部試驗日程を決め、一部の學生に通知した。これは學部學生に、試驗の準備を、一日でも早く始めるよう、と、ドッカリ一日早くしてやるとの、文學部の親心。この日程は、文學部の

現代支那を觸診す

B

北支自治とその發展性

長岡克曉

公債消化力の限度

小山田小七

フイリツピンの獨立

……その運動の史的發展……

島崎憲一

内外評論

藤田進一郎

新刊紹介

謄寫印刷
講義プリント　黎明社
本店・京都帝國大學裏門前　電話上(3)四六一三番　振替大阪六四〇六七番
支店・福岡、釜山、京城、東京

カメラと要品・技術全般　上田寫眞器店　熊野神社前　電話上四一六六番

國家試驗　第一種　第二種　第三種　第四種　第五種　第六種　第七種　第八種　第九種　第十種　第十一種　第十二種　第十三種　第十四種　第十五種　第十六種　第十七種　第十八種　第十九種　第二十種　第二十一種　第二十二種　第二十三種　第二十四種　第二十五種　第二十六種　第二十七種　第二十八種　第二十九種　第三十種　第三十一種　第三十二種　第三十三種　第三十四種　第三十五種　第三十六種　第三十七種　第三十八種　第三十九種　第四十種　第四十一種　第四十二種　第四十三種　第四十四種　第四十五種　第四十六種　第四十七種　第四十八種　第四十九種　第五十種　第五十一種　第五十二種　第五十三種　第五十四種　第五十五種　第五十六種　第五十七種　第五十八種　第五十九種　第六十種　第六十一種　第六十二種　第六十三種　第六十四種　第六十五種　第六十六種　第六十七種　第六十八種　第六十九種　第七十種　第七十一種　第七十二種　第七十三種　第七十四種　第七十五種　第七十六種　第七十七種　第七十八種　第七十九種　第八十種　第八十一種　第八十二種　第八十三種　第八十四種　第八十五種　第八十六種　第八十七種　第八十八種　第八十九種　第九十種　第九十一種　第九十二種　第九十三種　第九十四種　第九十五種　第九十六種　第九十七種　第九十八種　第九十九種　第百種　第百一種　第百二種　第百三種　第百四種　第百五種　第百六種　第百七種　第百八種　第百九種　第百十種　第百十一種　第百十二種　第百十三種　第百十四種　第百十五種　第百十六種　第百十七種　第百十八種　第百十九種　第百二十種　第百二十一種　第百二十二種　第百二十三種　第百二十四種　第百二十五種　第百二十六種　第百二十七種　第百二十八種　第百二十九種　第百三十種　第百三十一種　第百三十二種　第百三十三種　第百三十四種　第百三十五種　第百三十六種　第百三十七種　第百三十八種　第百三十九種　第百四十種　第百四十一種　第百四十二種　第百四十三種　第百四十四種　第百四十五種　第百四十六種　第百四十七種　第百四十八種　第百四十九種　第百五十種　第百五十一種　第百五十二種　第百五十三種　第百五十四種　第百五十五種　第百五十六種　第百五十七種　第百五十八種　第百五十九種　第百六十種　第百六十一種　第百六十二種　第百六十三種　第百六十四種　第百六十五種　第百六十六種　第百六十七種　第百六十八種　第百六十九種　第百七十種　第百七十一種　第百七十二種　第百七十三種　第百七十四種　第百七十五種　第百七十六種　第百七十七種　第百七十八種　第百七十九種　第百八十種　第百八十一種　第百八十二種　第百八十三種　第百八十四種　第百八十五種　第百八十六種　第百八十七種　第百八十八種　第百八十九種　第百九十種　第百九十一種　第百九十二種　第百九十三種　第百九十四種　第百九十五種　第百九十六種　第百九十七種　第百九十八種　第百九十九種　第二百種

右本の洋服　英洋部　指定　京大北門前　電話上2627

小山齒科醫院　東京醫科歯專士　小山正光　市電馬場通り二丁目　電話上五八二三番

育成洞　電話上小日本八六三番　編輯部

體溫計類　新製各種　處方調劑　熊野電停前　東山藥局　電話上三一四〇

飾裝用園・園家洋　店具家洋日吉　ハ七四一八九四

美術謄寫版印刷　歐文タイプライター印刷　京都市丸太町通烏丸東入　太洋堂　電話上三三三番

(月刊)大原社會問題研究所雜誌　十二月號(第二卷第十二號)　發賣所　栗田書店　東京市神田區錦町四丁目　電話神田四一八八番

紙面店　江百ウチ(株)　江百前じまり　まとめ舘

新京極　江百屋敷　正宗ホール　電話一八三五番

廿有餘年　業界正宗　正宗は君臨する　材料に無駄なし　正直に熱心　吟味の力　誇を以て新鮮の響高し

榮冠一年にして王座再び同大へ

わがラグビー部惜敗

今シーズン開幕ラグビー界の王座を巡ること本年度第一戦は一月十一日、東京・早稲田・慶應・三高の四大学の戦に決定、慶大は昨年度の王者として、早稲田は前年度の王者として、三高は関西の王者として、各々の王座を巡る戦いを展開する。

本年度の慶大は、昨年度の王者として、15人の選手を選抜、4月、本年度の王者として、15人の選手を選抜、4月、本年度の王者として、15人の選手を選抜、4月、本

(第三種郵便物認可) 昭和十三年六月十六日

◇——槍獄遠望 荒木俊馬——◇

青春の文學 老衰の徴候

日本浪曼派のこと

亀井勝一郎

日本浪曼派は何を主張するかと問はれたとき、一切がいい加減に笑へられたわけだが、いい加減に笑へられると、嬉しがるのは文學者だけである。そこで、主張しなければならぬ筈だが、主張しないのである。何故か。それは、文學とは、主張とか、思想とか、世間的なものとは、全く別の世界だからである。

ある人が、ある時、ある場所で、ある人に、ある事を、ある風に、ある言葉で、ある表情で、ある身振りで、ある音調で、ある文章で、ある作品で、ある人物を、ある人物に、ある人物を通じて、ある人物に、ある人物を通じて、ある人物に、ある人物を通じて